

渡り鳥の恵みを資源に！

キーワード 渡り鳥, 富栄養化, 利活用

12

つくる責任
つかう責任

15

残の恵みも
守ろう

■ 研究概要

日本では冬季になると多数の渡り鳥が各地に飛来します。これらの渡り鳥は観光資源として活用される一方で、糞尿による水域の富栄養化が問題となるケースも増えています。ここ山形県鶴岡市に位置する大山上池・下池でも、冬季にはカモ・白鳥などの渡り鳥が数万羽飛来しており、湖底には大量の栄養塩が堆積しています。

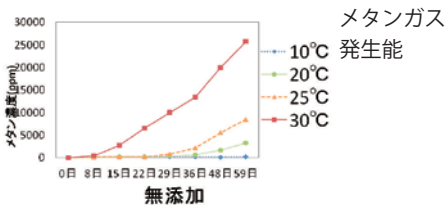
そこで本研究室では、これらの栄養塩や大量発生する水生植物（ヒシ、ハスなど）を肥料あるいはバイオガス資源として利活用することによって、水域の浄化を図ると共に輸入肥料に頼らない循環型の農業生産に向けての研究を行っています。



渡り鳥の飛来



水生植物の
伐採



ヨウサイ生産

■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・湖底堆積土からのメタンガス発生を利用したエネルギー化
- ・湖底堆積土と水生植物の肥料化（特にリン資源としての活用）
- ・水環境の保全・再生を通じた地域コミュニティの活性化

梶原 晶彦 助教 KAJIHARA, Akihiko

専門分野：農業水理学・水質水文学・環境水理学

E-mail : kajihara@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp